

No.106

# 公民館だより

平成10年12月

宮津市字由良

由良の里センター内

由良地区公民館

## 思うままに

公民館長 酒田 治

十一月に入り、いよいよ秋色の景色に染まる丹後路。温泉・カニ料理と、丹後地方ならではの特色ある季節となつて参りました。

公民館も皆様方の力強いご支援を受け、主事さんの行事報告のとおり七ヶ月が過ぎました。

十一月三日の文化祭も皆様のご協力により、多くの出品をお願いし、又多くの方々のご来場をいただき無事に終了出来ました。ことを厚くお礼申し上げます。

なお、年内行事として、公民館だより一〇六号の編集、印刷、製本発行と、年内に皆様のお手元

にお届け出来るよう取り組んでいるところでございます。

季節も、春、夏、秋、冬と移り変わつて行きます。つい前まで、暑い、暑いと言つていた夏……田の刈り取りも終り、秋祭りが過ぎると、次第に丹後特有の裏西の風が頬を打つ様になつて参ります。

冷たい風が吹き、久し振りに青空、朝日が由良岳の総てに映え、七合目あたりの官行造林が、黒々と連なり、その上の雑木林がこゝろ二、三日の寒さで急に色付き始めています。

春の由良岳は公民館の登山で

参加してはいますが、どうしても春霞の為に遠くの風景がぼやけてしまい、西ノ嶺より見える、天橋立をはつきりと眺めることが出来ません。そうしたこと、今年の秋は、是非由良岳に登り、紅葉と、天橋立をカメラに収めたかと思つていた矢先、九月に熊の出没となり残念乍ら、「命あつての物種」と紅葉をはじめた由良岳を見つめ乍ら独り言「来年は登れるかな」……人の噂さでは、京都縦貫道の工事で、山の中腹を二分された為に行動範囲が狭くなり、致し方なく由良の里にもお目見えしたとのこと……らしいです。

でも今まで、手塩にかけて収穫間近な柿を一晚のうちに全滅させられたら、

「かわいさ余つて、

憎さ百倍」

腹の立つのは当たり前と思ひます。

その上猪・猿、等も出没して農作物に被害を与えていることは、やはり何かの原因があるの

ではと思われます。

前記の京都縦貫道工事による環境関係も大いに影響しているのではないのでしょうか。

十一月三日、下石浦地区で、熊一頭が捕獲されました。

でも何頭の熊がいるのかは確認されていません。

みかんの収穫シーズンでもあり、又、石浦地区よりの通学路もあり、一日も早く熊の出没の音が聞かれない、安心して過ごせる対策を講じてほしいと思う一人です。



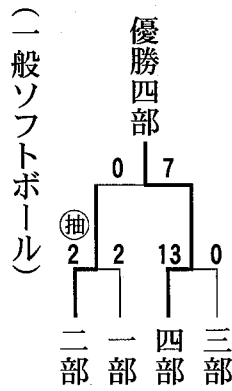
# 行事報告

主事 飯澤 登志朗

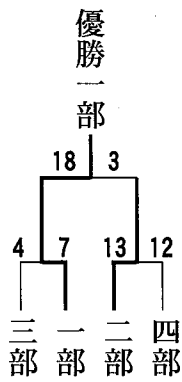
◎八月十四日

四部対抗球技大会

(青年野球)



(一般ソフトボール)



◎ソフトボールの部、長年低迷を続けていた一部が女性エースの登場で連続優勝を果たしました。

◎野球の部、選手が集まらないとボヤキ?が聞こえた四部が陣営を立て直し二試合連続完封で見事な優勝でした。

◎八月十四日  
盆踊り大会

文化部員総出で前日から準備し、当日午後五時から灯りを入れて踊り子を待ちました。婦人会員を先頭に二重の輪が出来る盛会でした。

反省として、公民館だけではなく他の団体にも呼びかけて夜祭りの要素を取り入れたらとの意見をいただいています。

◎十月二十五日  
芸能サークル発表会  
おだやかな秋日和に恵まれた一日、出演者の皆さんの熱心なご協力と観客の声援と拍手により実施することが出来ました。

芸能サークル発表会は隔年に(区民運動会と交互に)行われています。

文化活動に接する機会の少ない由良地区では貴重な発表会であると同時にこれからも益々盛

らになればと願っています。

◎第二十二回文化祭  
由良地区における文化祭は昭和五十二年に開始されました。当時は由良幼稚園をお借りして作品展としてスタートして今年には数えて二十二年経ちました。由良の里センターがオープンしてから会場を移し現在に至っておりますが、特に婦人会の特別のご協力により来場者も増え文化祭の形が整ってきたことに感謝したいと思います。

平成十年度

同和・人権教育指導者研修会  
この研究会は市教育委員会が主催し、由良、上宮津、吉津地区を指定して実施されることになりました。

由良地区では、自治連合会、婦人会、民生委員、小学校、同育友会のご協力を願い次のとおり終始熱心に取り組んでまいりました。

◎第一回 八月四日  
部落差別と人権について  
講師 森山忠男氏

◎第二回 八月二十七日  
障害者問題と人権について  
講師 山口 薫氏

◎名、応募作品数二六七点を数え、また天候にも恵まれて大変な人出でした。

◎第三回 八月三十日  
同和問題をはじめとした人権を考える  
講師 内田良美氏

今、公民館では市教育委員会の方針を受けて生涯学習の充実に取り組んでいます。一人ひとりが心の豊かさや生きがいを求め自分にあつた方法で学び続けることのお手本を示していただいたものと受け止めています。

◎第四回 九月十日  
女性の地位を高めよう  
講師 白井清美氏

◎第五回 十月十五日  
子どもの人権を考えよう  
講師 河田 晋氏

◎盆踊り大会

# 四部対抗野球大会に参加して

由 利 典 久

去る八月十四日に、由良公民館主催による四部対抗野球、ソフトボール大会が、残暑厳しい中実施されました。

例年、この球技大会を楽しみにしておられる方も多く、二日酔いのおっちゃんや、現役バリバリのお兄さん、普段は運動をされていない方も皆さん一緒にあって、暑さも忘れ真剣にプレーされていました。

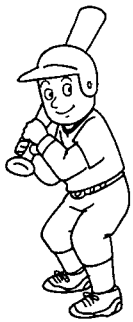
又、試合を熱心に観戦されたり応援されている方々、おもしろおかしい解説者、厳しい評論家、そのような楽しい雰囲気の中で、年代や職業の異なった由良区民の人達が、この球技大会を通して、わずかながらでもふれあいをもつという事は、非常に有意義なことであると思います。

我が一部は前回ソフトボール

の部で優勝し、久しぶりに真新しい賞状が公民館内に飾られ、区民の皆さんにも喜んでいただき、

『今年もなんとか優勝を！』という、期待する声もあり、選手達も力が入っていた様です。近年では、お盆にレジャーに行かれる方も多く野球、ソフトボールのメンバー集めに、苦労する事もあります。幸い前回のメンバーも含め多くの人に参加して頂きました。

各チーム共、力が均衡しており大接戦でしたが、全員一丸となつてプレーした結果、連続優勝することができました。



# 芸能サークル発表会に参加して

矢 野 さ ゆ り

着物を着て脚半を付け角帯をぎゅつと締めると背筋が伸び緊張感が増し同時に身がしまる。ステージに上がり位置を確

認、幕が開き音楽が鳴る。心の中で一二三……と数を数える。数え終わると場内の暖かい拍手、終わった、ほつとすると同時に今まで味わったことのない達成感がありました。奈具神社の秋祭り、婦人会の約二十名の方々と磯野先生の熱心なご指導を受け練習が始まりました。

踊りの右も左も知らなかった私でしたので初めのうちは機械体操の様でした。日頃使っていない筋肉が痛くなり思っていた以上にハードで汗びっしょりの練習でした。宵宮も無事終り、いよいよ芸能発表会に向け五人

での練習の始まりです。手の向き、動き、足運び、頭の向き、目線等一つ一つ細やかに教えて頂きました。

動きがスムーズになり美しく舞える様に思われ、踊りの楽しさも少しずつ分かってきました。いつもなら家事に追われている時間に練習に出かけました。普段ですとお互い忙しく、ゆつくり話す機会もありませんが、地域のこと、子育てのこと色々話をし体験などを聞き年令を越えて楽しく有意義ない一刻を過ごすことができました。

踊りに限らず、この様な地域での交流の場が持てることは、今後も地域の活性化につながっていくことと思います。今やつと筋肉痛が消えつつあります。

# 文化祭を終えて

由良婦人会

吉田 あい子

当日、十一月といえど寒くもなくさわやかで、とても気持ちの良い朝が、今日までの準備の疲れもすっかり忘れて、さあがんばろう！とフアイトをわかせてくれました。

私達が、婦人会として出させていただく売店と、うどん、ぜんざいのお食事処に、手落ちのない様に、何回も役員会によって、意見を出し合いながら進めてきました。当日を迎えるまで大変さを、今年は経験させてもらいました。各支部の役員さん達も忙しい中、うどん、ぜんざい券の販売、持ち込みされた出店物の確認。当日は早朝よりきざみものなど、本当に気持ち良く、そして、さすが皆さん『主婦だなあ』と会長が、くり返しくり返しいうほど、段取

りがよくスムーズで、そして機敏な動きで各持ち場をこなしてもらいました。

うどん、ぜんざいは、器をさげにいくと、『おいしいなあつ』と、声をかけてもらい、おうどんのおつゆまですつかりきれいになくなっていると、舞い上がる程のうれしさでいっぱいでした。

外では、テントの中で売店の係として一つでもたくさん買っていたかどうかと、中のことを気にかけながら一生懸命なパワーを感じました。

喫茶部のコーヒーと、グレープフルーツのケーキは本当においしかったです。前日の準備も、お互いに味見をさせてもらい、和気藹藹とした雰囲気でした。ありがとうございました。

なかには、由良の方ではないなっておもえる方もあり、各コーナーをにぎやかにしていたいた様でした。

時間のあい間をみて二階の作品を見せていただきました。色々な趣味を持つて、楽しんでおられる方々の、生き生きとした作品と、子供達の夢多き展示物に心をなごませてもらいました。

お茶席では、小室先生のもとに、作法も知らぬまま、接待をさせていただき、少しの時間姿勢を正して、お茶をいただきました。日本の伝統としてあるお茶席、気をひきしめ心のゆとりを取り戻す様な優雅な気持ちになりますね。私の場合、身につかない毎日のせつかちな日々を何とかしなければと反省もします。

今日の一日、本当に濃縮した時間をもらいました。館長さん、主事さんをはじめ文化部の方々の連日の集まりの中で、今

年の文化祭が盛大に終わりましたことをお喜び申し上げます。その中に婦人会として参加させてもらい、無事に終わったことにほっとしています。

経験された中で、親身になっていろいろな面で、御協力いただいた方もあり、改めてお礼申し上げます。そして、会場に足を運んで下さった皆様、本当にありがとうございました。

また来年も、よろしくお願ひ致します、お疲れ様でした。



# 宮津連合婦人会バレーボール大会

## ソフトバレーボールの部に参加して

岡田 たつ子

今年には例外に早く早い時期に開催され、夏の暑い間練習をさぼっていたので、練習不足のままの出場となりました。

昨年は、優勝は出来たのですが、決勝リーグで一勝一敗が三チームでセット数でかろうじて優勝したということもあって、

今年はずいぶん全勝優勝をしたいなあと練習不足は棚にあげ、ワイワイガヤガヤと会場の宮津小学校に到着しました。

私達六名は口は達者なくせに気が小さい(?) 為、勝っている時は調子も上がり、こんなに上手だったのかと自信満々なのですが、負け出すとポロポロで声も小さくなって負けてしまいます。

今年是对戦くじ運が良く、最

初の試合から二試合目までは大差で勝つことが出来ました。差がついていたので、チームワークもびつくりする程良くて、トスもきれいにあがるレスパイクもそこそこ決まって、皆も笑顔でプレーすることが出来ました。

二試合済んだ後、昼食になり婦人会の役員さんにたくさん差し入れをいただき、体も重くなつて午後の決勝リーグを迎えました。

少し時間が有り過ぎたせいか、体も硬くなり三試合目は、相手も強いこともあったせいかシーソーゲームになり、ドキドキしましたが何とか一セットをとると調子が出てきて、勝ちました。

四試合目はさすが決勝戦で、相手も真剣で、私達も全勝優勝したいと燃えていたので勢いに乗って勝つことができました。

婦人会の役員の方々と、皮バレーの皆さんに大きな声で応援して頂いて、優勝出来たのだと思います。どうもありがとうございました。

これからも、明るく楽しくをモットーに練習に励みたいと思います。

毎週月曜日の午後八時から練習していますので、興味のある方は是非のぞきにきて下さい。笑いがいっぱい楽しいメンバーばかりです。



「みやづ女性スポーツフェスティバル'98」に参加して

## 優勝の喜び

山田博子

十一月八日、宮津体育館でスポーツフェスティバルが、行われました。今年から、実行委員会が出来、「婦人だけで作った、手作りの大会」と言う事で、高く評価されました、由良からは約、大人七十五名、子供二十名が参加して頂きました。

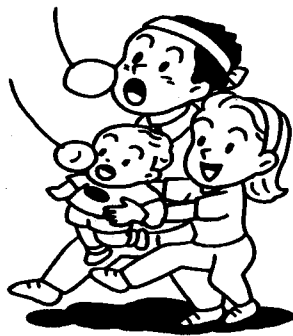
開会式と閉会式は、選手が少なく、寂しいものでしたが、競技が始まると多くの選手が集まり、皆忙しい中「自分の出る時だけでも、来てしよう」という気持ちの嬉しさ、感謝の気持ちで一杯でした。

日頃の家庭の不満をぶつけるかのように、おばさんパワーが弾けました。「すごい。すごい。」汗と声援と笑いに子供の燥き声とで、むんむんとした会場は、三時半まで続きました。

由良川の冷たい風と日本海の

汐風に培われた黄金の足で、なんと由良が二位との差を二十点も付け、「優勝」というすばらしさ。とても充実した気持ちで、自然に顔が綻びた。それは、秋色の中のすばらしい一日でした。

この日の、すごいパワーと、少女のような美しい輝きを、日々の生活に生かしたいと思えます。



由良に住んで四十年

## 思い出すままに(二)

四方寿郎

「古きをたずねて、新しきを知る」という言葉がある。将来を考えるには過去の正確な歴史を知ることが大切である。私は「あの人にもつと昔の話を聞いておけばよかつた」と後悔したことが度々ある。それが何時の間にか自分が聞かれる立場になってしまった。

生来私は三日坊主でこれまでに日記を時々つけ始めたが、三日と続いた試しがない。正確な資料にもとずいてというのは無理ながら、過去四十年由良で暮らして身近に経験した事を、思い出すまま書き記して、公民館からのご依頼に答えることにする。若し間違いがあればお教えください。

由良は田辺藩の昔から舞鶴圏に属していた。明治二十四年奈

具海岸道路が開通するまで、由

良と栗田の交通は船か所謂七曲八峠しかなかった。二十数年前、丹後資料館の方と、獺で山に詳しい平野国太郎さんに案内してもらって、脇から栗田へ越える道を探し歩いたことがある。昔は車を引いてこの峠を越え、宮津まで野菜を売りに行つたという話を聞いた。当時は恐らく年に一度は由良と栗田の両側から、地域の人々が道づくりに出たと思われる。途中まで行くとは何処が道だか分からなくなり、やつと出たのがレストラン紫城舞の手前だった。

終戦当時由良診療所は加佐六ヶ村組合立だった。昭和三十一年九月由良が宮津市へ合併してから、宮津市国保の直営となっていた。私が昭和三十三年

に井上巖に代わって開業して四方医院となった。

由良が舞鶴でなく、何故宮津へついたのでかは、当時脇に造りかけていた漁港の借金を肩代りする約束で、宮津への合併が決まったと聞いている。

その頃戦時中軍用に舗装された舞鶴綾部間以外、国道といえども全く地道だった。通行する車は少なかつたが、雨が降るとぬかるんで穴だらけ、折角砂利で埋めてもすぐ又凸凹、特に石浦の縄手は洗濯板のようになりやむなくブルトローザーで削る。その後を車が通ると、猛烈な砂ぼこりで、神崎から見ると由良の上空はかすんでいた。

奈具の海岸道路にも勿論ガードレールなど無く、路肩がよく崩れ、車のすれ違いに海側を通るのは、命がけだった。その代わり格好の時代映画のロケ場所となり、橋幸夫など当時の有名スターたちが度々撮影に訪れ、地区民を喜ばせた。

当時庶民の足は専ら自転車、

舞鶴や宮津への通勤はすべて汽車だった。文明の利器といえはオート三輪が白嶺、秋田両酒造に一台ずつ、トラックが駅前の日通に一〜二台。白嶺に乗用車一台あつた程度だった。私は往診用に中古のスクーター三菱ピジョン二五〇CCを買つた。

しかし雨や雪の日は大変で、是非四輪が欲しくなつた。当時は未だ自動車学校など無く、宮津の島崎に自動車のコースが造つてあつて、そこで運転免許の試験が日を定めて行われた。練習は空き地で免許のある人に教わつた。実技試験は今よりずつと簡単で、路上運転はなく、コースをバックで脱輪せずに運転出来れば大抵合格した。しかし試験に使われる車が古く、すぐエンストし、その度減点されるので、その車に慣れるのが大変だった。

当時お産は殆ど自宅で行われ、なかなか産まれなかつた

り、何か異常が起きると、医者  
が往診に呼ばれるのが普通だつた。由良には港に田原、山田の二人の産婆(助産婦)さんがおられた。しかし、ぼつぼつ入院分娩も始まつていた。そこへ私が開業したのだ。時代の流れで仕方がなかつたと思うが、お二人の仕事が私が取つてしまう形になつた。

道路事情は悪い、救急車はない、国民皆保険はまだ、経済的にも豊かでない、この時代に宮津や舞鶴の病院へ入院するのは大変な事だつた。私はお産や簡単な手術は由良でやりたいと考えていた。当時はまだ食料も充分なく、生きるための労働も厳しく、結核や脳出血、虫垂炎など貧しいための病気が多かつた。現在の飽食と運動不足で糖尿病や、肥満、心筋梗塞が多いのと対照的である。

開業の翌年、中古のダットサンを大枚二十七万円で購入した。今のお金で四〜五百万円

か、勿論借金で。今ならずく廃車程度の車だった。方向指示器は文字通り矢印が左右へ水平に飛び出して、曲がる方向を示す。またワイパーはタイミングを誤ると、どの位置にでも停止し、運転の視野を遮つた。

それでも病人を運ぶのにリヤカーしかなかつた当時は、急患の入院や退院によく役立つた。また、農家に耕運機が普及し始めた頃で、年に一度の区民運動会には、石浦の人々は家族一同が乗り込んだ耕運機を連ね、幟を立てて縄手を行進し、小学校の会場へ堂々と入場した。当然ながら、運動会も大いに盛り上がり、石浦の頑張りで四部がよく優勝した。道交法違反も当時は全く問題にならなかつた。また、その頃は二輪の免状で耕運機の運転が出来た。私のスクーターはその免許を取るための練習に引つ張りだこだった。

## 高槻からの便り

森田 宏

(高槻市)

由良の皆様、ごぶさたしてお  
ります。

このたび、公民館主事の飯沢  
登志朗さんから「公民館だよ  
り」に投稿の依頼を受けまし  
た。筆無精の私ですが、せつか  
くの機会ですので、紙面をお借  
りして、ご挨拶かたがた、近況  
をご報告させていただきます。

なにしろ、「公民館だより」  
に掲載されている役員の方々の  
名前を見ても、何処のどなたか  
はつきりしない方が多く、それ  
ほど由良を出てから、多くの月  
日が経過しております。逆に、  
私がこの便りを書いても、「森  
田宏」ってどんな奴かいな？と  
いうことになりそうです。前回  
のこの紙面に、四方様が由良へ  
来られて四十年という記事が  
載っておりますが、丁度四方  
様と交替に私も由良を出てから

約四十年になります。知らない  
方が多くなつても致し方ないこ  
とと、つくづく思います。

最近(十月)に、NHKの朝  
のニュース番組で、由良のみか  
ん狩りが始まったことが報じら  
れました。その中で、舞鶴方面  
から車で由良に向かつて、上石  
浦を通り過ぎた瞬間、最初に目  
にする由良川の鉄橋、この画面  
が写し出されました。由良の風  
景で、大変懐かしい中の一つで  
す。こういう画面を見ると、由  
良で育った二十数年の生活の一  
コマ一コマが、ほんの数秒間  
に、何十コマと再生します。

さて、現在私は、大阪の高槻  
で、既にサラリーマン生活を終  
え、暇にまかせてボランテイア  
とその合間をぬって、池や川で  
鮎釣りに興じております。  
サラリーマンをやめる前は、

定年後は、海外旅行やゴルフ三  
昧に明け暮れる予定でおりま  
した。残念ながら、病氣とけが  
がもとで、夢破れ、今の生活を  
余儀なくされております。(一  
抹の望みを抱きながら…)

平成七年から、三年間で三回  
の入退院を繰り返したのには、  
さすが参りまして、サラリーマ  
ン生活を続ける自信もなくし、  
自ら身を引きました。しかし、  
由良、如意寺の身替り地藏さん  
のお陰もあつてか、大病のわり  
には、少しの障害は残りました  
が、生活に大きく支障を来すこ  
となく、元気に過ごさせていた  
だいております。

三回の入退院で辛い思いはし  
ましたが、その間に多くのこと  
を学びました。特にリハビリを  
通して多くの障害を持つ方々に  
接し、世間には、体に障害を  
持つている方々が大変多いのに  
驚くとともに、その人達が人の  
助けをいかに求めているかを知  
りました。今までは、理屈とし

ては判っている積もりでありま  
したが、実体験は初めてでし  
た。その結果、私で可能な「手  
助け」の仕事がないか探しまし  
たところ、「送迎ボランテイ  
ア」なるものがありました。私  
自身、少々足が不自由でも、車  
の運転は出来ますので、格好の  
仕事を得ることができ、毎日充  
実した生活をさせて貰っており  
ます。具体的には、腎臓病で人  
工透析患者を自宅から病院まで  
の往復を送迎する単純なもので  
す。それでも無事送り届けた時  
には、「アリガトウ」の繰り返し  
で、大変感謝もされ、気持ち  
が豊かになります。

健常者が、この様な社会的弱  
者へ視点を向けるには、それ相  
当の努力を必要とします。出来  
れば、公民館活動を通して、誰  
もがその様な人々に自然と目が  
向くような教育活動をお願い  
たいものです。



# 短歌

大森 萬喜子

あや取りの毛糸たくみに操れる美菜子の指は桜色なり

征きし日を四か月半の吾子はいま三人子みたりの父 五十三歳

玉垣 まき

紅葉の保津川下る船上に味わうスリル波にとけこむ

「来年も来るぞ」とわれを励まして帰りゆきたる曾孫やさしき

重き辞書の頁繰りつつ秋の夜をルーペ右手に読みゆく小文字

稀にみる仲秋の月澄みたれば庭に出で立ちひとり見惚るる

坂本 妙子

中西 富志

住人のごとき顔して盆栽に動かぬ蛙 何を思うや

長き長き夏を過ごしてようやくに秋風そよぎほつと息づく

傷つきし蝶よゆらめく虚しさは夕焼け空に淡く染まりぬ

夕暮れて窓辺の下の草むらにはや秋虫の声きこえる

神苑に散りし落葉は露をうけ白く光りて秋ふかみゆく

ピンク色をかすかに揺らす風ありてコスモスの畑に見入るひととき

藤本史代

山田よしの

独断の許されている画布の前描きとめがたし秋の夕潮

由良川の河口近くにたなびきて行方も知らぬ白き夕雲

つつましくありて愁眉を開かむか秋陽に揺るる野のほととぎす

台風もそれてゆきしか由良川の空のかなたに星は瞬く

迷いごとひとつ断ちたる身の軽さ秋蝶われのあと先を飛ぶ

昇る日の川面に映えて美しく山のみどりは墨絵のごとし

山口美子

中西夏江

雨の朝亡き母偲ぶ軒先にへちまの花は並びて咲けり

すこやかにさらりと過ぐるマラソンの少年少女あきかぜのなか

農道の草むら暑し気がつけば今朝炎ほの色に彼岸花咲くそれぞれの体力も匂う如くにて駆けくる少女こらは紅秋ざくら

夕やみの無人駅には人影も見えず靴音のみが聞こゆる

秋天にこころ跳ねいむ少年が 見る夢はなに 海は明るし

# 「防犯から地域安全活動へ」

由良駐在所

奥田政郎

地域の安全は、社会における最も基本的な価値であり、地域住民が豊かでゆとりのある生活を営む上での基盤となるものです。

最近、地域社会に内在していた犯罪の抑止機能の低下が指摘されるようになり、犯罪の増加を危惧する声も聞かれますが、地域社会において連帯意識を高めようとする気運も現れ地域住民がボランティアとして地域の活動に参加するという傾向が見られます。

地域安全活動とは、国民の総意である「安全で住みよい地域社会」を実現するために生活に危険を及ぼす犯罪・事故・災害を未然に防止することです。

従来、犯罪を防止する活動を防犯活動としてきましたが、この地域安全活動の対象は広く

なっており、犯罪のほかに事故や災害も含んでいて、警戒と発生の未然防止だけでなく、特に事故や災害が発生したときの被害拡大防止も含まれています。

この地域安全活動の三本柱として、

◎地域住民による地域安全活動

地域住民による地域安全活動は、地域住民の生活を守ろうとする自主活動として推進されることによつて、効果が挙がる。

◎地域住民による地域安全活動への警察・自治体による支援活動

地域住民による活動が活発化し、創意工夫に富んだ自主的な活動として推進されるよう支援活動を行う。

◎警察による地域安全活動

地域住民による地域安全活動との連携に配慮しつつ、警察自ら取り組むべき地域安全活動を推進する。

があげられ、地域住民による活動とあいまって、自治体による支援及び自主的な地域安全活動が求められているものです。

以上のことを念頭におき、今後の警察活動にご理解とご協力をお願いし、地域安全活動を推進していきたいと考えています。



## 編集後記

長期予報によると、今年の冬は寒さも厳しく雪も多いように報道されています。

公民館だよりがお手元に届けられる頃には、由良岳の頂上にも初雪が太陽の光を受けて輝いて居ることと思います。

どうか風邪など引かれないように、佳き年をお迎え下さい。

酒田

